激動の 20 世紀を生きた世界的建築家の自伝が今に蘇る

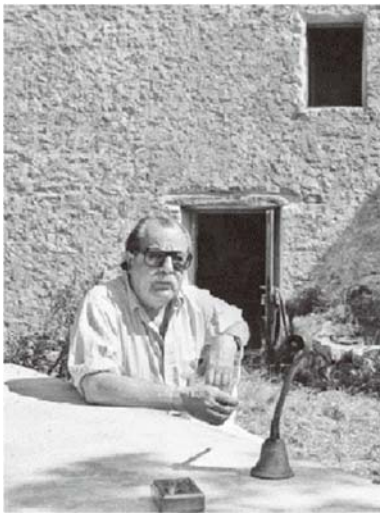
書　名：生活を築く(原題:Bâtir la vie)
著　者：ジョルジュ・キャンディリス
訳　者：岩村 和夫
発　行：創樹社
販　売：Amazon.com Japan

発行日:2019 年 2 月 1 日
全 288 ページ
価　格：3,240 円(税込)

本書は Amazon.com Japan ｵﾝﾃﾞｨﾏﾝﾄﾞからのみ購入できます。

序　章　建築の発見
第 1 章　ロシアでの幼年期
第 2 章　ギリシャでの青年期
第 3 章　アテネ工科大学の学生時代
第 4 章　戦争とレジスタンス
第 5 章　フランスでのル・コルビュジエの下で
第 6 章　建築家であること
第 7 章　飛翔
第 8 章　問題の再考
第 9 章　万人のために建てる
第 10 章 万人のためのリゾート
第 11 章 教授であること
終　章 問題の核心

9784883511167



ジョルジュ・キャンディリスは 1913 年にバクーで生まれた。アテネで建築を学び、ル・コルビュジェに師事し、CIAM(現代建築国際会議) や TEAM X に参加しながら、膨大な数の住宅・都市デザインを手掛け、世界の建築家に影響を与えた。ジャーナリストのミッシェル・ルフェーブルに語った自らの足跡は自伝として編纂され、1977 年に出版された。その後絶版となったが 2012 年に再版された。そしてオリエントから西欧へ、レジスタンスから教育へ、20 世紀の大規模な戦いから共に生きる困難な術に関する思索へと、今なお私たちを導いてくれる。

訳者あとがき(抜粋)から

・・・戦後生まれた我々にとって、このように熾烈で波乱に満ちた人生を生き抜いた一人の建築家の存在は、奇跡に映る。本文中に登場するル・コルビュジエを初め、数多の人々の生き様と、建築や都市や住まいの理念や実態との関係性が、著者の足跡の大きさをさらに増幅する。・・・そして今も世界の各地で直面する理不尽な状況の連鎖を思うにつけ、本書をぜひ多くの人々に読んでもらいたいと願うものである。

2018 年8月　横浜にて　岩村和夫

訳者略歴（いわむら かずお）：　1973年早稲田大学大学院修士課程修了後、仏政府給費生として渡仏。その後在パリ「ジョルジュ・キャンディリス事務所」を経て、1977年ドイツ、ダルムシュタットに「建築都市設計同人AG5」設立。1980年帰国し、東京で「岩村アトリエ」主宰。1998年武蔵工業大学環境情報学部教授を経て、2011年改称を機に創設された東京都市大学都市生活学部・同大学院教授就任。日本建築家協会、日本建築学会、国際建築家連合（UIA）等の役員を歴任し、環境に配慮した建築・住まい・まちづくりの作品、著書多数。それらの業績に対し、日本建築学会賞をはじめ受賞も多数。現在、東京都市大学名誉教授、㈱岩村アトリエ代表取締役、香港・珠海学院客員教授、東京工業大学講師。
（詳細は www.iwamura-at.com 参照）